

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS001		保育原理		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期	■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数	■ 単位数
専門	必修	1年 通年	90分	30	2
■ 代表教員名		■ 教員区分	■ 担当教員の主な職務経歴		
植木 章子		兼任	幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事		
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
保育の意義や目的について理解し、保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の変遷・発達などの外観を通して保育に関する基礎的な知識を培うこと。そして保育が直面している現実的・今日的課題について考察し各人が課題意識をもって問題を掘り下げ、保育の在り方を探求し、保育に対する意識が高められるようにする。(保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を中心とした保育展開を学んでいく。)					
■ 成績評価基準					
①各章における確認テスト ②授業最後のテスト ①②の総合点で評価				＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
岡田耕一		保育原理(子どもの保育の基本理論の理解)		萌文書林	
天野珠路・北野幸子		(新基本保育シリーズ)保育原理		中央法規	
厚生労働省・文部科学省・内閣府		保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		フレーベル社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	乳幼児期教育を行う施設や児童福祉法の全体的構図・イントロダクション(保育原理の必要性及び授業の流れを把握する)		17・18	・保育所保育指針に関する基本原理 ・保育における養護	
3・4	保育の意義及び目的について ・保育の理念と概念 ・保育の概念		19・20	保育の目標と方法について ・保育所保育指針にみる保育の目標 ・保育の内容	
5・6	・保育と教育 ・子どもの最善の利益と保育		21・22	・保育の環境・方法 ・子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)とその循環	
7・8	保育の社会的役割と責任		23・24		
9・10	子どもの家庭福祉と保育		25・26	保育の思想と歴史的変遷 ・諸外国の保育の思想と歴史	
11・12	子ども・子育て支援制度と保育に関わる関係法令		27・28	保育の現状と課題について ・諸外国の保育の現状 ・日本の保育の現状と課題	
13・14	・子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令 ・子ども・子育て支援制度 ・保育の実施体系		29・30		
15・16	保育所保育指針における保育の基本について ・保育所保育指針・認定こども園保育要領とは何か				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS002		教育原理		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	30
2					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
田原 慎也		兼任		幼稚園園長、児童クラブ施設長および鹿児島県幼稚園協会常務理事等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
教育の意義や目的について理解し、その歴史的な変遷と基本的な理論について理解する。また、日本及び諸外国の教育思想や歴史、現在の教育制度や課題について理解する。教育原理の基本を習得し、さまざまな教育実践にも触れることで、教育・保育現場での実践に活用できるようにする。					
■ 成績評価基準					
出席・授業態度：30点、レポート内容・グループディスカッションでの取り組み姿勢：70点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
矢藤 誠慈郎・北野幸子		新基本保育シリーズ②教育原理		中央法規出版株式会社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	教育の意義について		17・18	日本や諸外国における子ども観と教育観	
3・4	教育の目的について		19・20	教育制度について	
5・6	乳幼児期の教育の特性について		21・22	日本の教育制度について	
7・8	教育と福祉の関連について		23・24	諸外国の教育制度について	
9・10	教育と地域社会とのつながりについて		25・26	さまざまな教育実践について①	
11・12	諸外国の教育思想・歴史について①		27・28	さまざまな教育実践について②	
13・14	諸外国の教育思想・歴史について②		29・30	教育の現状と課題	
15・16	日本の教育思想や歴史について				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS003		子ども家庭福祉			講義
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
前野 明子		兼任		スクールカウンセラーの業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2 児童家庭福祉と保育の関連性及び児童の人権について理解する。 3 児童家庭福祉の制度と実施体系等について理解する。 4 児童家庭福祉の現状と課題及び動向と展望について理解する。					
■ 成績評価基準					
授業時のレポート提出, 単位認定試験					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
大津 泰子		児童家庭福祉 第3版 子どもと家庭を支援する			ミネルヴァ書房
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	第1章 現代社会と子ども家庭福祉(1)		17・18	第5章 児童福祉施設	
3・4	第1章 現代社会と子ども家庭福祉(2)		19・20	第6章 子ども家庭福祉サービス(1)	
5・6	第2章 子ども家庭福祉の歴史(1)		21・22	第6章 子ども家庭福祉サービス(2)	
7・8	第2章 子ども家庭福祉の歴史(2)		23・24	第6章 子ども家庭福祉サービス(3)	
9・10	第3章 現代社会と子ども家庭福祉の理念と法律(1)		25・26	第7章 保育サービス	
11・12	第3章 現代社会と子ども家庭福祉の理念と法律(2)		27・28	第8章 少子化対策と子育て支援	
13・14	スクールカウンセラーの業務に従事		29・30	単位認定試験	
15・16	第4章 子ども家庭福祉の機関と専門職(2)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS004		社会福祉		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				30	2
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
米森 勇二		専任		介護福祉士の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
社会福祉の制度、仕組み(システム)及び実践がどのように行われているか、その全体像を理解し、社会保障、社会福祉の各分野について理解する。 1. 現代社会における社会福祉の意義の歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉と児童福祉及び人権や家族支援との関連性について理解する。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。					
■ 成績評価基準					
①平常点(受講態度) ②授業最後のテスト ①, ②の総合点数で評価 ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容	回	授 業 内 容		
1・2	オリエンテーション(社会福祉とは)	17・18	子ども家庭福祉		
3・4	社会福祉の歩み	19・20	障害者と福祉		
5・6	社会福祉制度	21・22	高齢者福祉		
7・8	社会福祉従事者	23・24	医療福祉		
9・10	社会福祉の方法	25・26	社会福祉施策		
11・12	生活問題と社会保障①	27・28	地域福祉		
13・14	生活問題と社会保障②	29・30	ボランティア		
15・16	生活問題と社会保障				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS005		社会的養護 I		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
前田 真奈美		兼任		保育教諭の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1. 社会的養護の求められる背景やこれまでの歴史、基本的な考え方を理解する 2. 社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する 3. 社会的養護で求められる保育士の専門性を理解する					
■ 成績評価基準					
子どもの権利擁護の視点から諸問題について具体的解決策を考え、説明することができるか、試験、リアクションペーパー、授業内の発言等から総合的に判断する。 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
公益財団法人児童育成協会		新基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I 第2版		中央法規	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	社会的養護の理念と概念		17・18	社会的養護の対象と支援のあり方	
3・4	社会的養護の歴史的変遷		19・20	家庭養護と施設養護	
5・6	子どもの人権擁護と社会的養護		21・22	社会的養護にかかわる専門職	
7・8	社会的養護の基本原則		23・24	社会的養護に関する社会的状況	
9・10	社会的養護における保育士等の倫理と責務		25・26	施設等の運営管理の現状と課題	
11・12	社会的養護の制度と法体制		27・28	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	
13・14	社会的養護のしくみと実施体系		29・30	テスト・まとめ	
15・16	社会的養護とファミリーソーシャルワーク				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS006		教職概論			講義
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	1年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
森山 剛充		兼任		幼稚園教諭 教務主任, 認定こども園 主幹保育教諭の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
本授業は、今日の園における自らの教師(保育者)像を明確にして自己実現を図り、教職に対する情熱や使命感を高めることを目的としている。特に、教師(保育者)の職務内容を理解するために、教職についての認識を深め、教師(保育者)に求められる資質について考察する。授業の目的を達成するため、教職の意義や教師(保育者)の役割、職務内容等についての知識や理解を深めることを具体的な目標とする。授業を通して、教師(保育者)として必要な事項について自らの考えを述べ、グループワーク等も行う。					
■ 成績評価基準					
授業振返りによる省察状況、ディスカッションやグループワーク、レポートなど、授業への取組状況を踏まえて総合的に評価する。					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
古橋 和夫 編著		教職入門 未来の教師へ向けて			萌文書林
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	オリエンテーション		17・18	教員の役割②(保育者としての資質と能力)	
3・4	教職の意義①(教職現場の実態)		19・20	教員の役割③(保育者の役割)	
5・6	教職の意義②(教職者の使命)		21・22	教員の役割④(保育者である前に)	
7・8	教職の意義③(教職者の職務)		23・24	教育・保育とは①(グループワーク)	
9・10	職務内容①(教職者の職務内容)		25・26	教育・保育とは②(グループワーク)	
11・12	職務内容②(教職者の服務)		27・28	教育・保育とは③(グループワーク)	
13・14	職務内容③(教職者の連携)		29・30	まとめ、授業評価	
15・16	教員の役割①(保育者の位置づけ)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS007		子ども家庭支援論		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期	■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数	■ 単位数
専門	必修	2年 通年	90分	30	2
■ 代表教員名		■ 教員区分	■ 担当教員の主な職務経歴		
中島 賢太郎		兼任	小学校・特別支援学校教諭及び教育委員会指導主事、スクールカウンセラー等の業務に従事		
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
テキストの学びを生かし、「子ども家庭支援」に関わる時事的な課題や問題について対話をして考えを深めていく。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て支援に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
■ 成績評価基準					
①出席点(15点) ②プレゼンテーションの内容、貢献度(25点) ③終講試験(60点) ①～③の総合点数で評価				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
渡邊 暁 編著		実践で役立つ子ども家庭支援論		ミネルヴァ書房	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	オリエンテーション 家庭支援とは		17・18	養育支援を必要とする家庭への支援	
3・4	親の子育てについて悩み・背景		19・20	在留外国人家庭、障害児のいる家庭への支援	
5・6	家事・育児との両立と保育士に求められる支援		21・22	子ども家庭支援の取り組み(1)	
7・8	子育て家庭を取り巻く社会環境		23・24	子ども家庭支援の取り組み(2)	
9・10	地域とのかかわり		25・26	子ども家庭支援の取り組み(3)	
11・12	保育所と多職種連携		27・28	プレゼンテーション	
13・14	社会的養護下にある子どもと養育者への支援		29・30	終講試験	
15・16	保育士が行う相談支援				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS008		保育の心理学			講義
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
山本 直彦		兼任		臨床心理士・公認心理師として、児童発達支援・放課後等デイサービス、相談支援事業所、私立高校・専門学校の心理支援に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
人が生まれてから死ぬまでの流れを意識しながら「今」を支えることは、支援のあり方を点から線に変える。この講義では発達心理学の基本的知識を学び、繋がりのある支援ができる保育者の視点を身につけることを目標とする。					
■ 成績評価基準					
授業への積極的な参加態度、レポートのないよう、科目終末試験を総合的に判断して評価する。					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
坂上裕子 他		問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学			有斐閣ストゥディア
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	オリエンテーション・保育の心理学について		17・18	学校での学び	
3・4	発達するとは		19・20	青年期の発達	
5・6	生命の誕生について		21・22	大人になる私	
7・8	赤ちゃんの世界		23・24	成熟とは	
9・10	コミュニケーションと人間関係の発達		25・26	人生を振り返る	
11・12	言語と遊びの発達		27・28	発達は十人十色	
13・14	関りの中で育まれる自己		29・30	最終試験	
15・16	仲間の中での育ち				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS009		子ども家庭支援の心理学			講義
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
前田 真奈美		兼任		保育教諭の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1. 幼児期の心身の自然な発達について理解する 2. 幼児期を終えた後の発達について見通す力をつける 3. 子どもの成長と共に、親の成長について理解する 4. 自分や相手を肯定的に見ることができる					
■ 成績評価基準					
家庭支援の視点から、子どもや保護者の抱える問題について考えることができるか、リアクションペーパー、授業内の発言、試験の内容により評価する。 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
白川佳子・福丸由佳(編)		(新)基本保育シリーズ⑨子ども家庭支援の心理学			中央法規
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	乳児期の発達		17・18	養育スタイルの形成過程	
3・4	幼児期の発達		19・20	子育ての経験と親としての育ち	
5・6	学童期の発達		21・22	子育てを取り巻く社会的状況	
7・8	青年期の発達		23・24	多様な家庭とその理解	
9・10	成人期・中年期の発達		25・26	特別な配慮を要する過程	
11・12	高齢期の発達		27・28	災害と子ども	
13・14	家族・家庭の意義と機能		29・30	テスト・まとめ	
15・16	家族関係・親子関係の理解				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS010		教育心理学		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
松本 宏明		兼任		スクールカウンセラー、心理療法士の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
教育心理学は、子どものこころや発達特性について心理学的なみかたから教育を効果的に行うための方法を見つけ出そうとする学問である。本スクーリングではとくに、自閉症やADHDの発達に偏りのある子どもの特徴やかかわりについて、映像を通して学ぶことで、現場や家庭における保育・教育の望ましいあり方について、実践的な見方から考えていく。					
■ 成績評価基準					
筆記テスト 課題で評価する ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	気になる子と発達障害				
3・4	発達障害の種類と基本的特徴				
5・6	映画「レインマン」から学ぶ自閉症の特徴①				
7・8	映画「レインマン」から学ぶ自閉症の特徴②				
9・10	当事者の声から学ぶADHDの特徴				
11・12	保育場面における対応①自閉症				
13・14	保育場面における対応②ADHD				
15	総まとめ/テスト				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS011		子どもの保健		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 必修		2年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 授業時数	
牟田 京子		兼任		30	
				■ 単位数	
				2	
■ 担当教員の主な職務経歴		大学教員(小児看護)、高校看護教員、看護師の業務、公認心理師としてスクールカウンセラー等の心理支援に従事。			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1. 子どもの保険の意義がわかり、子どもを取り巻く社会問題、今後の課題について説明できる。 2. 子どもに起こりやすい疾病・事故について述べるができる。 3. 疾病・事故予防の対策と方法について説明することができる。					
■ 成績評価基準					
終講試験 80点 出席、取り組み姿勢、課題 20点				＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
飯島 一誠		保育者のためのわかりやすい子どもの保健		総合医学社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	オリエンテーション 子どもの保健とは		17・18	子どもの疾病と保育(1)	
3・4	子どもの発育と発達		19・20	子どもの疾病と保育(2)	
5・6	生理機能の発達と保健		21・22	感染症と予防接種	
7・8	運動機能の発達と保健		23・24	障がいがある子ども	
9・10	精神機能の発達と保健		25・26	子育て支援体制 子どもと母親のメンタルケア	
11・12	発達と生活習慣		27・28	子育て支援サービス ペアレントプログラム	
13・14	子どもの精神保健		29・30	終講試験	
15・16	保育環境				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS012		子どもの食と栄養			講義・演習
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
中西 智美		兼任		鹿児島県小・中・県立学校栄養教諭, 鹿児島県学校給食会技術主査	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
子どもの発育・発達をめざましく、特に幼児期は、生涯にわたる食習慣や食に関する考え方の基礎が身に付く大切な時期である。幼児期を中心に、離乳期から思春期まで各発達段階における食生活について、食育の基本と内容・方法を学ぶ。 また食を営む力の基礎を培うことを目標に、食と健康との繋がりを理解し、献立・調理に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。					
■ 成績評価基準					
筆記(40)、発表(30)、課題(20)、授業への取り組み(10)					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
堤ちはる 藤澤由美子		子どもの食と栄養			中央法規
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容 (通 信)		回	授 業 内 容 (面 接)	
1・2	子どもの健康と食生活の意義 ①子どもの心身の健康と食生活の関係 ②子どもの食生活の現状と課題		1・2	保育の一環としての食育の展開(食育プログラム)	
3・4	栄養の基本、種類と働き ①栄養の基本的理念と栄養素の種類と機能 ②食事摂取基準とその活用		3・4	献立・調理・衛生管理等の基本的な考え方	
5・6	子どもの発育・発達と食生活 ①発育・発達と栄養・食生活 ②摂食機能の発達 ③食生活と子どもの健康		5・6	行事食、郷土料理、地場産物活用における食育	
7・8	乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活 ①乳幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ②乳汁栄養、離乳の意義とその実践 ③乳児期の栄養上の問題と健康への対応		7・8	乳幼児期及び離乳期の栄養(調乳と離乳食の実際)	
9・10	学童期・思春期心身の発達と食生活 ①学校給食の重要性と食育		9・10	幼児期の栄養の実際(食事とおやつ)	
11・12	地域や家庭と連携した食育の展開 ①地域の関係機関との連携や職員間の連携 ②食生活指導・保護への支援		11・12	学童期及び思春期の栄養の実際(食事とデザート)	
13・14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ①家庭における食生活の問題点 ②児童福祉施設での食事		13・14	食育演習(グループ発表)	
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①疾病及び食事療法が必要な子どもへの対応 ②食物アレルギー・障害のある子どもへの対応		15	子どもの食と栄養(まとめ)	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS013		教育課程総論		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
田原 慎也		兼任		幼稚園園長、児童クラブ施設長および鹿児島県幼稚園協会常務理事等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
なぜ保育計画を立てる必要があるのかといった教育課程や指導計画の基礎的な知識と方法について学び、計画、保育実践、振り返り・評価・改善といった保育実践の過程について理解を深める。教育課程や指導計画の重要性について理解したうえで、教育・保育者として一人一人の子どもの実態に即した、また発達の連続性や小学校との接続を踏まえた計画を立案・作成することができるようにする。					
■ 成績評価基準					
出席・授業態度：30点、レポート内容・グループディスカッションでの取り組み姿勢：70点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ		保育課程・教育課程総論		株式会社ミネルヴァ書房	
厚生労働省・文部科学省・内閣府		保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		フレーベル社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	保育の基本と計画について		17・18	教育課程の編成について	
3・4	指導計画とその役割について		19・20	保育課程の編成について	
5・6	保育計画(0～2歳児)について		21・22	指導計画を考える①	
7・8	保育計画(3～5歳児)について		23・24	指導計画を考える②	
9・10	小学校との接続・連携について		25・26	指導計画を考える③	
11・12	保育計画の変遷について		27・28	指導計画を考える④	
13・14	日案・週案の作成①		29・30	指導計画を考える⑤	
15・16	日案・週案の作成②				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS014		保育内容総論		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 授業時数	
専門	必修	1年	通年	90分	15
				1	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
植木 章子		兼任		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている保育の内容を構成する5つの領域に対する全般的かつ総合的な理解を深める。さらに保育は、養護と教育が一体となって展開すること、遊びを通して総合的に指導することが基本であることを理解し、一人一人に応じた支援の在り方について学ぶ。また、保育現場の状況を具体的にイメージしながら保育内容を考え実態と諸問題を複眼的な視点でとらえ、演習を通して幅広い見識を養うことを目標とする。保育とはどのようなものか十分理解するとともに、子ども理解や保育方法について、子どもの発達の特性や発達過程を踏まえて総合的に捉える視点を養い、具体的な保育実践力を身に付ける。					
■ 成績評価基準					
授業態度(10%)・教材作り(10%)最終日のテスト(80%)					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
石川昭義・松川恵子		(新基本保育シリーズ)⑭保育内容総論		中央法規	
厚生労働省・文部科学省・内閣府		保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		フレーベル社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	保育内容総論の意義と各論の関係性を知る				
3・4	保育の全体構造と保育内容について理解する				
5・6	保育の内容の歴史的変遷とその社会的背景				
7・8	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方を学ぶ				
9・10	保育の基本を踏まえた保育の内容の展開(子どもの発達・遊び・活動)を体験的に学ぶ				
11・12	養護・教育が一体的に展開する保育・環境を通して行う保育・教育について学び、保育者の役割について学ぶ				
13・14	遊びによる総合的な保育・生活や発達の連続性に考慮した保育の在り方を教材作りを通して学ぶ				
15	保育の多様な展開や特別な支援を必要とする子どもの保育や多文化共生の保育などについて学ぶ				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS015		健康(指導法)		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
瀬戸 陽子		兼任		中学校教諭(保健体育)及び体操教室経営	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
急激な社会変化の中で子どもの身体や心のゆがみが指摘されている。その一方で健全な精神や身体を育成するはずの運動・スポーツは低年齢化・競技化・専門化の傾向にあり弊害さえ生み出している。健康についての理解を深め、知識を獲得し実践していくことを目標とする。					
■ 成績評価基準					
筆記テスト					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
鯨坂二夫, 米谷光弘		健康 理論編		保育出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回		授 業 内 容			
1・2		健康の概念			
3・4		現代社会における健康阻害			
5・6		幼児と大人の生理機構			
7・8		健康領域			
9・10		養護と援助			
11・12		身体の発達と運動発達			
13・14		食事, 睡眠, 排泄, 着衣清潔に関する養護と援助			
15		健康管理と安全教育 (テスト50分)			
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS016		人間関係(指導法)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
子どもが本来有している人と関わる能力について理解し、そうした能力を引き出すために必要な環境構成のあり方について検討することが求められる。また、子どもたちを取り巻く過程や地域などの現状を理解しながら、現在の社会背景による子どもたちへの影響等について考え、乳児保育の意義や役割を理解する。 領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識、技術を取得する。 子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度)10点、ワーク活動30点、グループ(砂場、ゲーム)各20点、レポート20点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
塚本美知子		対話的、深い学びの保育内容 人間関係		萌文書林	
		幼稚園教育要領		文部科学省	
		幼保連携型認定こども園教育・保育要領		文部科学省、内閣府、厚生労働省	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	自己理解と自己概念 「自分を知る」ところからはじめよう				
3・4	領域「人間関係」における保育及び教育の目標 子どもたちとの生活の基準や地域社会の現状について				
5・6	砂場遊びを通して、子ども同士の関係を考える グループ活動				
7・8	砂場遊びを通して、子ども同士の関係を考える グループ活動の発表				
9・10	ゲーム遊びを通して、子ども同士の人間関係について考えよう グループ活動「簡単なゲームを体験しよう」				
11・12	ゲーム遊びを通して、子ども同士の人間関係について考えよう グループ活動「簡単なゲームを考えて発表しよう」				
13・14	バルーンを通して、協力することの楽しさや大切さを考えよう グループ活動「振付を考える」				
15	グループ発表「バルーン振付発表」 まとめ				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS017		環境(指導法)		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼児期は興味や関心を持ったものに対して自分から関わろうとする能動性によって心身の発達要因となる。この能動性を発揮させるには環境が整っていることが重要である。そのための人的環境、物的環境、自然環境、社会環境等について考えさせる。また、幼児は遊びをとおして心身が発達するものである。日本の文化として引き継がれている草花遊びは幼児および保育者に物的環境、自然環境だけでなく、人的環境を考えさせ、数量や空間、時間経過についての理解を促すことが可能であり、保育者がその方法や意義を体験的に学ぶことで「環境」について理解を深める。					
■ 成績評価基準					
グループワーク20点、校外活動を通じての意欲、態度20点、レポート60点で評価					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	さまざまな環境について学ぶ				
3・4	乳幼児の発達と保育と環境について各自課題に取り組む				
5・6	ものとかかわりから生まれる育ち グループ活動				
7・8	ものとかかわりから生まれる育ち グループ活動発表 2日目校外授業について				
9・10	鹿児島市立科学館の施設を利用した環境体験1				
11・12	鹿児島市立科学館の施設を利用した環境体験1				
13・14	鹿児島水族館の施設を利用した環境体験2				
15	鹿児島水族館の施設を利用した環境体験2 まとめレポート				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS018		言葉(指導法)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
森山 剛充		兼任		幼稚園教諭 教務主任, 認定こども園 主幹保育教諭の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域の一つ「言葉」について、乳幼児期の言語的発達を踏まえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本などの文化財との関わり等の具体的な言葉に関わる保育内容の指導法を実践的に理解する。乳幼児の言葉に関する「ねらい」「内容」を保育現場でどう展開するかを学んでいくとともに、子どもが言葉を獲得し活発な言語活動ができるようになるには自分の気持ちを言葉で表すことの楽しさを味わうことができるようにすることが大切である。					
■ 成績評価基準					
授業態度(10%)・教材作り(10%)最終日のテスト(80%)					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	幼稚園・保育園に見る保育内容としての「言葉」について(ねらい・内容・内容の捉え方)把握する				
3・4	保育現場における言葉の指導について(言葉の機能や使い方・言葉の発達)学ぶ				
5・6	乳幼児期の言語発達の筋道を知る(乳児期の言語発達・コミュニケーションのとりかたについて)①				
7・8	乳幼児期の言語発達の筋道を知る(幼児期の言語発達・コミュニケーションのとりかたについて)②				
9・10	ワークで学ぶ(教材作りを通して言葉の仕組みなどを学ぶ) ・お話し作り・しりとりカード作り等 ・言葉遊びを楽しむ				
11・12					
13・14	絵本・紙芝居の意義と魅力について知り、各年齢に適した絵本・紙芝居を選択し、実践していく				
15	現代の子どもを取り巻く環境と言葉の領域(言葉の育ちに関わる諸課題について)について考えていく				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS019		造形表現(指導法)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	1年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
小江 香南子		兼任			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1 幼児期における造形表現の意義について理解する。 2 具体的な教材体験を通して様々な表現技法に触れ、考察を深める。 1及び2を通して教育者として必要な造形能力を習得し、幼児教育における造形表現領域の指導力を育成する。					
■ 成績評価基準					
作品及びワークシート、保育指導案……80% プレゼンテーション及び授業態度……20%				＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
樋口 一成		幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材		萌文書林	
内閣府 厚生労働省 文部科学省		幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領		内閣府 厚生労働省 文部科学省	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容 (通 信)		回	授 業 内 容 (面 接)	
1・2	造形教育の意義、育みたい資質、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と4幼児期の造形教育の関連性		1・2	「表現」領域のねらい及び内容並びに全体構成の理解	
3・4	発達段階による造形活動の特質や活動において		3・4	幼児が身につけていく内容と指導上の留意点の理解	
5・6	主体的な学びに向けた題材を考えよう (感覚遊びや工作、粘土、版画)		5・6	幼稚園教育における評価の理解	
7・8	保育案の構成、内容と作成 (造形活動のめあて・子どもの様子・道具などを考える)		7・8	「表現」領域で幼児が経験する内容の関連性	
9・10	乳幼児期の造形表現の発達について理解を深める		9・10	保育領域における保育構想の重要性と理解	
11・12	幼児期の造形教材の体験1		11・12	保育における情報機器及び教材の活用法	
13・14	幼児期の造形教材の体験2		13・14	具体的な保育を想定した指導案内容と作成の理解	
15	体験した造形教材による部分実習の指導案の作成		15	「造形と表現」実体験からの創作と表現・試験	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS020		乳児保育 I		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期	■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数	■ 単位数
専門	必修	1年 通年	90分	30	2
■ 代表教員名		■ 教員区分	■ 担当教員の主な職務経歴		
濱田 恵利子		専任	幼稚園教諭及び主任の業務に従事		
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・乳児保育に関して、理論・実技を通して学びを深める。 ・乳児の成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。 ・子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を習得する。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度、提出物など)20点、 実技40点 、ワーク、課題40点 ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
志村聡子		はじめて学ぶ 乳児保育		同文書院	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	乳児保育はなぜ必要か―社会的背景から考える乳児保育の意義、目的と役割について		17・18	保育所で過ごす1日の流れ ―年齢別デイリープログラム(日課表)	
3・4	「子ども・子育て支援制度について」指遊び		19・20	保育環境の衛生管理について 乳児保育における安全管理について	
5・6	知っておきたい法律のいろいろ ―児童福祉法などワークレッシン		21・22	おむつ替えとおむつはずれについて 実技「おむつ替え」	
7・8	「保育所保育指針」の目的・内容について 「保育所保育指針」における乳児保育のポイント1、2		23・24	離乳食の基礎知識 ―離乳に向けて食事の勧め方を知る	
9・10	絵本の読み聞かせについて 実技発表		25・26	保護者との連携を考えよう ―乳児を取り巻く協力関係を目指して	
11・12	乳児のこころ、ことば、からだの発達について		27・28	かみつき・つひっかきへの対応 ―トラブルの背景と保護者との連携について	
13・14	実技「だっこ・おんぶの仕方」 ―乳児とのふれあいの基本を学ぶ 乳児の衣服の基礎知識		29・30	連絡帳の書き方を練習しよう まとめ	
15・16	乳児保育における複数担任制 ―保育者同士の連携の在り方について				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS021		乳児保育Ⅱ		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
3歳児未満児の発育、発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 ・乳児保育の理念と歴史的返還や乳児保育の役割を学ぶ。 ・乳児期の子どもの発達について学び、その生活や遊びについて理解する。 ・乳児の沐浴や着替え、排泄等の対応について学ぶ。 ・保護者と保育者、関係機関等の望ましい連携について考える。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度など)20点、実技40点、課題20点、発表20点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
志村聡子		はじめて学ぶ 乳児保育		同文書院	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回		授 業 内 容			
1・2		授乳の仕方 実技：調乳・授乳体験			
3・4		授乳の仕方 実技：調乳・授乳体験			
5・6		手作りおもちゃ「設計図を作成する」 0～2歳児を対象にしたおもちゃを考えよう			
7・8		手作りおもちゃの発表			
9・10		沐浴の仕方・清拭の仕方 実技：沐浴の方法			
11・12		沐浴の仕方・清拭の仕方 実技：沐浴の方法			
13・14		わらべうたを楽しもう			
15		乳児が楽しめる体操を覚えて発表しよう			
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS022		障害児保育		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
今村 幸子		兼任		認定こども園保育教諭として業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
近年の障害に対する考え方の変化や様々な障害の状態像について事例を用いて説明し、保育の中で必要となる特別な支援の内容について講義する。					
■ 成績評価基準					
筆記テストにより評価する					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
小林徹・栗山宣夫 編		ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育		みらい	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	様々な障害種と地域の障害児保育の現状について理解する				
3・4	知的障害とその教育について理解する				
5・6	肢体不自由とその教育について理解する				
7・8	視覚障害とその教育について理解する				
9・10	聴覚障害とその教育について理解する				
11・12	病弱・身体虚弱とその教育について理解する				
13・14	自閉症・情緒障害とその教育について理解する				
15	教師の専門性と研修の意義・課題について理解する				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS023		幼児への特別な支援		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
今村 幸子		兼任		認定こども園保育教諭として業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
地域の特別な支援の必要な子どもの実態について説明し、グループディスカッション等を通して、子どもの具体的な指導・支援について、教師としての指導の重要性を講義する。					
■ 成績評価基準					
筆記テストにより評価する					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
小林徹・栗山宣夫 編		ライフステージを見通した障害児保育と特別支援		みらい	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	特別支援教育の理念や制度，地域の実態を理解する				
3・4	インクルーシブな学校等と特別な配慮を必要とする障害のない幼児児童生徒について理解する				
5・6	特別支援教育の歴史について理解する				
7・8	特別支援教育の教育課程について理解する				
9・10	言語障害とその教育について理解する				
11・12	学習障害とその教育について理解する				
13・14	注意欠陥・多動性障害とその教育について理解する				
15	教育と福祉・医療・労働との連携について理解する				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS024		社会的養護Ⅱ		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 授業時数	
高田 裕子		兼任		15	
				■ 単位数	
				1	
■ その他教員		■ 担当教員の主な職務経歴			
		教育委員会教育相談員、スクールカウンセラーとして業務に従事			
■ 授業概要及び到達目標					
1年次に履修した「社会的養護」を基に、児童養護施設の施設用語の体系を理解する。そのうえで、グループワークを通じて児童養護施設での保育士の支援の在り方を検討し、発表(実技を含む)を行う。					
■ 成績評価基準					
授業への参加態度、発表 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等の説明)				
3・4	社会的養護の基本原則と施設養護体系 施設の種類や対象児童について				
5・6	児童養護施設における日常生活支援 日常生活支援における保育士の役割を考える				
7・8	児童養護施設における治療的支援 治療的支援に必要な保育士のスキルについて考える				
9・10	児童養護施設における自立支援 自立支援に必要な保育士のスキルについて考える				
11・12	児童養護施設における保育士の役割 よりよい支援の在り方とは(検討)				
13・14	児童養護施設における保育士の役割 よりよい支援の在り方とは(資料作成)				
15	児童養護施設における保育士の役割 よりよい支援の在り方とは(発表)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS025		子育て支援		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
米森 勇二		専任		介護福祉士の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
子どもや家族などへ子育て支援を行うときの基本を学ぶ。保育等の現場に出たときに、子どもや家族の相談に対応できるようになる。事例や担当教員の体験談等を通じて、子育て支援の実態に興味を持つ。毎日人と関わりながら生きている社会人として、自分の考え方や行動の幅を広げる。人権尊重や自立支援などについても考え、自己及び他者への理解及びコミュニケーション技法についての理解を深める。 コミュニケーションとは、信頼関係をつくり上げるために意思の疎通をすること。そして、コミュニケーションを通して信頼関係を築くときは、話しやすい空間づくりが必要不可欠である。空間づくりにおいて、「相手の非言語コミュニケーションに気付くこと」「自身が出している非言語コミュニケーションを意識することが重要である。					
■ 成績評価基準					
①平常点(受講態度) ②課題発表 ③授業最後のテスト ①～③の総合点数で評価				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	援助で大切なこと(学ぶ)				
3・4	子育て支援で大切なこと(観察する)				
5・6	子育て支援で大切なこと(傾聴)				
7・8	子育て支援で大切なこと(伝える)				
9・10	子育て支援で大切なこと(共感)				
11・12	子育て支援で大切なこと(信頼関係をつくる)				
13・14	子育て支援で大切なこと(紹介する)				
15	まとめ振り返り				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS026		子どもの健康と安全		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
牟田 京子		兼任		大学教員(小児看護)、高校看護教員、看護師の業務、公認心理師としてスクールカウンセラー等の心理支援に従事。	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1. 子どもの健康管理について、予測を立て予防策を考えられる。 2. 子どもの成長・発達に合わせた健康に関する指導を考えることができる。 3. 健康に関する指導の中に子どもの安全と衛生について踏まえることができる。					
■ 成績評価基準					
演習評価 80点 取り組み姿勢 20点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
竹内義博・大矢紀昭 編		よくわかる子どもの保健		ミネルヴァ書房	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	子どもの健康管理について ①健康教室とは				
3・4	②健康教育の計画立案				
5・6	③疾病の予防と健康管理についての策				
7・8	子どもの生活と健康 ①適切な保育環境				
9・10	②保険における用語的側面と教育的側面				
11・12	健康教室の実施				
13・14	健康教室の実施				
15	子どもの健康について まとめ				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS027		幼児と音楽表現		講義・実技	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
福元 清美		専任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事	
■ その他教員		引地 えり子			
■ 授業概要及び到達目標					
楽譜の仕組みや読み方を習得し、両手で演奏する技術を身につける。 保育の現場で歌われている曲のレパートリーを増やす。 コードを理解し、簡易伴奏ができるようになる。					
■ 成績評価基準					
実技試験(90%)授業への参加態度(10%) 実技試験を担当講師全員で評価し、合計を出し平均する。					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
平松 愛子		音楽 ピアノ教本		近畿大学九州短期大学	
久世 安敏		音楽 声楽教本		近畿大学九州短期大学	
鹿児島私立幼稚園協会 発行		うたとあそび		共同音楽出版社	
幼児表現教育研究会 編著		うたってつくってあそぼう		音楽之友社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	生活の歌を音程を正しく歌えるようにする				
3・4	C,D,F,Gの調を理解し、移調を試みる				
5・6	コード奏法, (C F G D)				
7・8	3コードを理解し、伴奏づけまでできるようになる				
9・10	独唱と伴奏				
11・12	歌と伴奏にわかれ発表する				
13・14	ピアノ・声楽 試験曲レッスン				
15	試験				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS028		幼児と造形表現		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
小江 香南子		兼任			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼児期の造形表現における教材解釈と教材体験を通して、表現領域における教材研究の内容と方法について実践的に考察する。 具体的な教材体験を通して、教材研究の意義と方法を理解する。					
■ 成績評価基準					
作品及びワークシート(70) プレゼンテーション及び授業態度(30) ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	教材1 描く活動「イラストしとり」構想・下描き				
3・4	教材1 描く活動「イラストしとり」着色・仕上げ				
5・6	教材2 動くおもちゃ「ホバークラフト」構想				
7・8	教材2 動くおもちゃ「ホバークラフト」製作				
9・10	教材3 共同制作 折り紙コラージュ 構想				
11・12	教材3 共同制作 折り紙コラージュ 製作				
13・14	教材3 共同制作 折り紙コラージュ 製作				
15	教材3 共同制作 折り紙コラージュ プレゼンテーション				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS029		幼児と健康		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
瀬戸 陽子		兼任		中学校教諭(保健体育)及び体操教室経営	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
乳幼児期の健康と運動の経験は、子どもの発達にとってとても大きな意義を持っている。保育者は子どもの運動発達の順次性や興味・関心・欲求を十分に理解した上で、明確な意図をもって保育計画を設定し、児童期への橋渡しをする義務を担っている。					
■ 成績評価基準					
実技テスト、筆記テスト					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
堀田 亮		幼児体育Ⅱ		近畿大学九州短期大学	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	からだほぐし運動				
3・4	じゃんけん遊び チーム分け方法				
5・6	短縄・長縄				
7・8	ボール				
9・10	フープ				
11・12	マット				
13・14	新聞紙 ゴム ペットボトル				
15	実技・筆記試験				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名			
2025年度		こども学科					
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態			
C25MS030		幼児と言葉		講義			
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数		■ 単位数
専門	必修	1年	通年	90分	15	1	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴			
森山 剛充		兼任		幼稚園教諭 教務主任, 認定こども園 主幹保育教諭の業務に従事			
■ その他教員							
■ 授業概要及び到達目標							
5領域の一つ「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために、専門的事項に関する知識を身につける。言葉の問題は、領域「言葉」だけにとどまらず、子どもの人格形成に大きく影響を及ぼすものであることを根底に考え、子どもと楽しく関わり合い、楽しい会話を紡いでいけるように、保育所・幼稚園・認定こども園での指導の支えである領域「言葉」について学び、言葉の発達を概観し、内容を発達の捉えていくようにする。また、言葉を育てる文化財について基礎的な知識を身につけ、教材研究など演習を通して学んでいく。							
■ 成績評価基準							
①授業態度(10%) ②教材作成(10%) ③最終日にテスト(80%)				＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可			
■ テキスト・参考書							
著者名		書籍名			出版社		
岡田明		(新訂)子どもと言葉			邦文書林		
■ 特記事項							
■ 授業計画							
回	授 業 内 容						
1・2	乳幼児の発達と言葉について(言葉の意義や機能・言葉の発達と環境)						
3・4	保育内容としての「言葉」について、保育指針・教育要領・幼保連携型こども教育・保育要領から確認していく						
5・6	保育活動での各年齢における言葉かけを中心としての援助と関わりを学ぶ						
7・8	幼児における児童文化財の意義と援助・関わりについて知る						
9・10	絵本・紙芝居の意義と魅力について学び、演習を通してその技術を養う						
11・12	読み聞かせの実践における工夫						
13・14	パネルシアター・おもちゃ・テレビ等の活かし方を知る						
15	言葉の育ち(言語発達)を捉える視点を学び、保育評価の活かし方を考える						
備考							

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS031		保育実習Ⅰ（保育所）		実習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				90	2
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・保育現場での経験により、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深めて確立し、保育所の役割、機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。					
実習先における評価を点数化し、通常の授業態度を加味し、総合的に評価する。 平常点（授業態度・提出物（実習事後レポートを含む）：概ね20点） 実習先評価（概ね80点） ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1～90	保育実習の意味や概要を知る。				
	保育所における1日の流れを知る。				
	保育所における子どもを知る。				
	子どもへ理解を深める。（年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など）				
	保育内容・保育環境を理解する。				
	保育の計画、観察、記録の方法について実践的に学ぶ。				
	観察実習に参加し、保育現場での実践				
	日誌や指導案の書き方を学ぶ。				
	実習後の振り返りを行い今後への課題を確認する。				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS032		保育実習Ⅰ（施設）		実習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	90
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任，保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
保育士資格を取得するために保育所以外の児童養護施設で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。 ・施設現場で養護と療育を経験することにより，これまで学習してきた理論や技術が，保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。 ・実践を通じて，保育の技術，能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め，確立する。					
■ 成績評価基準					
実習先における評価を点数化し，通常の授業態度を加味し，総合的に評価する。 平常点（授業態度・提出物（実習事後レポートを含む）：概ね20点） 実習先評価（概ね80点） ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
石橋裕子他		知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版		同文書院	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1～90	施設の役割，機能などを理解する。（1日の流れ，子どもや障害者の活動など）				
	子ども（利用者）を理解する。計画・記録・日誌の書き方を実践的に学ぶ。				
	各施設の概要を学ぶ。				
	養護内容・生活環境を理解する。				
	各種発達障害について学ぶ。				
	施設保育士の職務内容および役割，また他の職員とのチームワークなどの理解。				
	専門職としての保育士の役割と倫理を学び理解する。				
	担当保育者の指導や助言に従い，積極的に保育実習に参加すること。				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS033		保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・指導計画の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
■ 成績評価基準					
平常点〈出席・授業態度・提出物等：概ね10点〉 授業理解ワークシート〈提出期限・内容・丁寧さ等40点〉 振り返りテスト(50点) ※欠席した場合単位は認めず、実習には参加できない。					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	保育実習全体の流れと諸注意				
3・4	保育実習の目的、基本的理解、職務内容				
5・6	保育所の1日の流れとデイリープログラムの理解				
7・8	実習の抱負と課題・ねらいについて				
9・10	実習日誌への取り組み(実習日誌事例に基づいて)説明				
11・12	実習日誌記載事項確認と日誌記載練習				
13・14	実習前チェックリスト記入・実習時の提出書類について確認				
15	手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育などに向けた準備・確認テスト				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名			
2025年度		こども学科					
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態			
C25MS034		保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）		講義			
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数		■ 単位数
専門	必修	2年	通年	90分	15	1	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴			
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事			
■ その他教員							
■ 授業概要及び到達目標							
・保育実習（施設）の意義・目的・内容といった全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ・具体的な内容を通して児童福祉施設実習（保育所以外）について知る。 ・実習前にすべき事柄・指導計画書の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に、具体的な事例に基づきながら学んでいく。 ・児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてまとめる。 ・「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習に向けた課題など実習事後レポートをまとめる。							
■ 成績評価基準							
平常点（出席・授業態度・提出物等：概ね10点） 授業理解ワークシート（提出期限・内容・丁寧さ等40点） 振り返りテスト（50点） ※欠席した場合単位は認めず、実習には参加できない。				＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可			
■ テキスト・参考書							
著者名		書籍名			出版社		
守 巧・小櫃 智子 他		施設実習 パーフェクトガイド			わかば社		
田上 哲		保育実習事前指導			近畿大学九州短期大学		
■ 特記事項							
■ 授業計画							
回	授 業 内 容						
1・2	施設実習の目的、基本的理解、職務内容						
3・4	児童福祉施設について（施設の種類や概要）						
5・6	施設実習に臨む態度と心構えについて確認						
7・8	実習の抱負と課題・ねらいについて						
9・10	実習日誌への取り組み（実習日誌事例に基づいて）説明						
11・12	実習日誌記載事項確認と日誌記載練習						
13・14	実習前チェックリスト記入・実習時の提出書類について確認						
15	確認テスト						
備考							

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS035		保育・教職実践演習		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 授業時数	
濱田 恵利子		専任		30	2
■ 担当教員の主な職務経歴					
幼稚園教諭及び主任の業務に従事					
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
現代社会の変動や幼児教育現場の抱える課題が多様化する中で、保育者として教職生活を営むためにはこれ迄の学習を体系的に統合し、省察する必要がある。その過程において保育者として必要な資質能力を確実に身に付けているかどうか確認し、必要な自己点検を講じることが必要である。実習を通して、自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として、保育士、教諭、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。					
■ 成績評価基準					
通信科目分(授業形態) 授業態度10点、グループ活動40点、課題・レポート50点、 スクーリング科目(面接授業) グループ活動30点、製作技術20点、発表30点、レポート10点、授業態度10点					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
生野金三・井口眞美・田中正浩		保育・教職実践演習(自己課題の発見・解決に向けて)		萌文書林	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(通信)		回	授 業 内 容(面接)	
1・2	自己評価～自身を知る～		1・2	模擬保育実施 ・行事資料集の中から保育指導案を作成 ・指導案に基づき役割分担及び保育準備 ・グループごとに模擬保育を展開	
3・4	子ども理解と保育実践① 指導計画について学ぼう		3・4		
5・6	子ども理解と保育実践② 指導要録記入について		5・6		
7・8	保育の現代的な課題と保育実践 ドキュメンテーションの実践について		7・8		
9・10	保育の現代的な課題と保育実践 ドキュメンテーション作成		9・10	「子どもを取り巻く社会的環境の変化」を取り上げグループでまとめていく	
11・12	保育の現代的な課題と保育実践 不適切保育について		11・12	グループで作成した資料に基づき、プレゼンテーションを行う	
13・14	家庭と子育て支援		13・14	幼稚園・保育園・認定こども園の保育の基本と幼児理解の重要性を振り返り、子どもの理解の方法を確認する	
15	他国の保育事情について知ろう		15	保育者としての自己文政期や保育・教育職の意義と職務内容の把握に努める	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名					
2025年度		こども学科							
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態					
C25MC001		日本国憲法		講義					
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間		■ 授業時数		■ 単位数	
一般 必修		1年 通年		90分		30		2	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴					
西 洋介		兼任		衆議院議員秘書, 行政書士, 学校法人 理事・法務部長などの業務に従事					
■ その他教員									
■ 授業概要及び到達目標									
日本国憲法の3つの基本原理の中でも特に「基本的人権の尊重」の理解を最大の到達目標とする。いじめや家庭での虐待, 貧富格差の拡大など, 子どもたちが晒されている環境は厳しいものがある。それらの社会情勢に目を背ける事なく, そのニュースを読み, 自分で理解し, そして子どもたちの権利を守る実践力を身につけるために, その基礎となる原理や考え方を理解する事をテーマとする。									
■ 成績評価基準									
授業毎に提出したレポート及び試験を採点する。 主張に関してその内容については評価の対象としない。その主張が根拠を示し, 三段論法を用いて, 合理的に説明できているかを評価する。									
<基準> 100～90点 : 秀 89～80点 : 優 79～70点 : 良 69～60点 : 可 59点以下 : 不可									
■ テキスト・参考書									
著者名			書籍名				出版社		
下村孝 著			「【全改訂版】日本国憲法」				近畿大学九州短期大学通信教育部		
■ 特記事項									
■ 授業計画									
回		授 業 内 容			回		授 業 内 容		
1・2		ガイダンス 憲法とは			17・18		模擬国会(2) 法律制定②		
3・4		模擬裁判(1) 国民主権			19・20		模擬国会(3) 憲法改正①		
5・6		模擬裁判(2) 平和主義			21・22		模擬国会(4) 憲法改正②		
7・8		模擬裁判(3) 包括的基本権			23・24		模擬国会(5) 予算		
9・10		模擬裁判(4) 精神的自由権			25・26		模擬国会(6) 地方自治		
11・12		模擬裁判(5) 経済的自由権			27・28		学外研修		
13・14		模擬裁判(6) 社会権			29・30		学外研修		
15・16		模擬国会(1) 法律制定①							
備考									

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC002		情報処理入門Ⅰ		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
一般 必修		1年 通年		90分	
				30	
				2	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
相 菌 忠久		専任		ICT企業にてシステムエンジニアとしてシステム開発に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
情報処理全般の幅広い基礎知識を学習する。ネットワークやソフトウェア・ハードウェアの基礎を学習する。ネットワーク犯罪や情報セキュリティの基礎を学習する。 日本語ワープロソフトを利用して、入力練習やビジネス文書を作成できるように利用方法を学習する。					
■ 成績評価基準					
通信：講義内容についての筆記試験を実施する 面接：指定したビジネス文書を作成、内容を評価する。 ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
近畿大学九州短期大学		情報処理入門		近畿大学九州短期大学通信教育部	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(通信)		回	授 業 内 容(面接)	
1・2	情報処理の基礎		1・2	日本語ワープロソフトの利用(入力練習)	
3・4	コンピュータシステム(コンピュータの歴史)		3・4	日本語ワープロソフトの利用(文章の編集)	
5・6	コンピュータシステム(5大装置)		5・6	日本語ワープロソフトの利用(表の作成と編集)	
7・8	ソフトウェア		7・8	日本語ワープロソフトの利用(グラフィックス)	
9・10	ネットワーク(ネットワーク基礎)		9・10	日本語ワープロソフトの利用(書式設定)	
11・12	ネットワーク(インターネットの仕組み)		11・12	日本語ワープロソフトの利用(ヘッダーとフッター)	
13・14	コンピュータとネットワークの脅威(ネットワーク犯罪)		13・14	日本語ワープロソフトの利用 (文書技巧・ビジネス文書 基礎)	
15	コンピュータとネットワークの脅威(情報セキュリティ)		15	日本語ワープロソフトの利用 (文書技巧・ビジネス文書 応用)	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC003		英会話 I		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
一般 必修		1年 通年		90分	
				30	
				2	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
ノビス 麻里恵		兼任		通訳および翻訳(企業), 英語講師(学習塾), 英会話教室経営等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・シンプルな英語を使って口頭でのやりとりができる。 ・英語で行う保育活動を考え、発表することができる。					
■ 成績評価基準					
課題提出, 小テスト等 50% 演習, 発表 50% ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(通信)		回	授 業 内 容(面接)	
1・2	Self introductions, Greetings		1・2	Songs, Story books	
3・4	Wheather		3・4	Songs, Story books	
5・6	Color, Shapes, Count		5・6	Songs, Story books	
7・8	Parts of the body, Clothing, illness		7・8	Songs, Story books	
9・10	Review①		9・10	Play	
11・12	Presentation		11・12	Play	
13・14	Presentation		13・14	Play	
15	Review②		15	Play	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC004		健康科学		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
一般	必修	1年	通年	90分	15
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
瀬戸 陽子		兼任		中学校教諭(保健体育)及び体操教室経営	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
超高齢化社会・余暇社会・健康不安社会の社会不安の問題に対応しスポーツは有効に機能しなければならない。スポーツ活動で健康を維持し体力を向上し、現代社会に広げた運動不足を解消することを学ぶ。					
■ 成績評価基準					
テスト 60点以上 可 59点以下 課題提出					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
鐘ヶ江 淳一		生涯スポーツ 健康科学		近畿大学九州短期大学	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	健康観の変遷 古代・中世・近代の健康観				
3・4	WHO定義				
5・6	現代社会の諸問題健康障害要因				
7・8	体力の概念				
9・10	防衛体力 ・ 行動体力				
11・12	運動の種類 ・ 継続時間 ・ 強度 ・ 頻度				
13・14	運動の科学的トレーニング				
15	振り返り(テスト50分)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC005		生涯スポーツ		講義・実技	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
一般	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
瀬戸 陽子		兼任		中学校教諭(保健体育)及び体操教室経営	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
1. スポーツが、生涯の心身の健康にいかに関与しているかを理解する。 2. バドミントン・バレーボールの実践を通してコミュニケーションを図る。 3. ゲームを通して審判や運営能力の向上を図る。					
■ 成績評価基準					
実技テスト、筆記テスト <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	授業ガイダンス アイスブレイキング				
3・4	体力測定 健康診断 調査				
5・6	お手玉作成 あそび(3個)				
7・8	お手玉あそび 展開				
9・10	骨について知る				
11・12	縄あそび				
13・14	バドミントン ①基本乱打				
15	②応用 ③ゲーム				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS036		青年心理学		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
島 義弘		兼任			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
青年期の心理的特徴を説明できることを目標とする。青年期の特徴を詳らかにするために、児童期や成人期との対比を通して、生涯発達という視点から考えていく。授業にはLTD学習(Learning Through Discussion)を取り入れ、受講者全員で学びあう姿勢を涵養する。					
■ 成績評価基準					
筆記試験:50% 課題:30% 関心・意欲・態度:20%					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
白井利明		よくわかる青年心理学(第2版)		ミネルヴァ書房	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容 (通信)		回	授 業 内 容 (面接)	
1・2	青年期と青年心理学		1・2	学校と学習1	
3・4	青年期の思考と感情1		3・4	学校と学習2	
5・6	青年期の思考と感情2		5・6	進路と職業1	
7・8	身体とジェンダー		7・8	進路と職業2	
9・10	自己とアイデンティティ1		9・10	社会と政治	
11・12	自己とアイデンティティ2		11・12	障害と臨床	
13・14	家族と友人1		13・14	大人になること	
15	家族と友人2		15	確認試験	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS037		教育相談		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
山本 直彦		兼任		施設にて、臨床心理士・公認心理士として業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
保育・教育場面においての心理学やカウンセリングの基本的な知識や実践について学ぶ					
■ 成績評価基準					
授業で実施するレポート 筆記試験				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
石川 洋子		子育て支援カウンセリング		図書文化	
市川 奈緒子		気になる子の本当の発達支援		風鳴舎	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	教育相談とは		17・18	気になる子どもの見立てと関わり	
3・4	カウンセリングの基本的な考え方		19・20	障害特性とその支援	
5・6	傾聴・共感のグループワーク		21・22	保護者への関わり	
7・8	組織としての共働・連携		23・24	子育て困難と児童虐待	
9・10	カウンセリングの技法：精神分析・来談者中心療法		25・26	家族が抱える問題	
11・12	カウンセリングの技法：行動療法・家族療法		27・28	まとめ講義	
13・14	カウンセリングの実際：事例から学ぶ		29・30	試験	
15・16	カウンセリングの実際：事例から学ぶ				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS038		幼児の心理学		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
■ 授業時数		■ 単位数			
専門	必修	1年	通年	90分	15
1					
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
松本 宏明		兼任		スクールカウンセラー，心理療法士の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼児の心理学では、主に幼児期から児童期の子どもの心理および行動の発達について取り上げることで、保育者が子どもを理解し、保育を効果的に行う知識や方法を身につけることを目指す。具体的には、主に実際の乳幼児の運動・認知・コミュニケーションといったそれぞれの側面から、映像を通じて、幼児の行動の発達のあるいは心理的な意味を考えることで、保育における子どもの心理的側面現場や家庭における保育の望ましいあり方を学ぶ。					
■ 成績評価基準					
筆記テスト 課題で評価する				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
伊藤健次 編		保育に生かす教育心理学		(株)みらい	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	心って何だろう 保育場面における心理学				
3・4	子どもの心の発達を捉える考え方を学ぶ				
5・6	赤ちゃんの運動発達を見て学ぶ				
7・8	幼児のこころの発達①認知				
9・10	幼児のこころの発達②言語				
11・12	幼児のこころの発達③社会性				
13・14	保育場面でのかかわりと保育者のこころ				
15	総まとめ テスト				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS039		教育方法論		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				30	2
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
〈概要〉 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 〈到達目標〉 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。					
①平常点(出席・受講態度：概ね10点) ＜基準＞ 100～90点：秀 ②授業振り返りテスト(概ね10点) 89～80点：優 ③科目終末試験内容(概ね80点) 79～70点：良 ※科目終末試験は9月～実施予定。8種の課題のうち当日2問出題される。 69～60点：可 持ち込み不可のレポート記述式試験となる。 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
垂見直樹・池田竜介 編著		幼児教育・保育のための教育方法論		ミネルヴァ書房	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容	回	授 業 内 容		
1・2	教育方法の基礎理論	17・18	幼児理解に基づいた評価		
3・4	日本幼児教育方法の歴史	19・20	幼児教育・保育における遊び		
5・6	環境を通して行う教育	21・22	幼児教育・保育における計画と評価		
7・8	子どもの育ちと物的環境	23・24	幼児教育・保育における情報機器(ICT)の活用		
9・10	子どもの育ちと人的環境	25・26	情報活用能力と幼児教育・保育		
11・12	子どもの育ちと社会的環境	27・28	幼児教育・保育のこれから		
13・14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程	29・30	総括		
15・16	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS040		音楽表現(指導法)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
福元 清美		専任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
心が弾むような、心が大きく動くような楽しい体験を子どもたちが積み重ねていくには、保育者はどのように手助けすべきか。日々の保育の中で、子どもが想像力豊かにまた感情豊かに成長していくためには、保育者はどのような環境設定と援助をすべきか、音楽を通して実践的な表現活動を学ぶことを目標とする。					
■ 成績評価基準					
発表(90%) 授業への参加態度(10%) ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	領域「表現」と音楽表現 ユニバーサルデザインの音楽表現				
3・4	身近な材料を使って楽器作り				
5・6	作った楽器でリズム遊び				
7・8	リトミックの考え方と基本 8つの要素を理解する				
9・10	リトミック体験				
11・12	各自が先生になってみんなでリトミック				
13・14	各自が先生になってみんなでリトミック				
15・16	創作ダンス				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS041		劇あそび(指導法)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び(ごっこ・劇あそび)の内容と意義について学習する。 表現活動の演習課題を通し、感じたり考えたり想像したり創造したりする力を養う。					
■ 成績評価基準					
発表(90%) 授業への参加態度(10%) <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	保育における劇あそびについて ～5領域との関係～ 【感性と表現に関する「表現」・言葉の獲得に関する「言葉」・人との関わりに関する「人間関係」】				
3・4	保育現場での劇あそびの実践事例 ～見立て遊びから発展する劇あそび～				
5・6	劇あそびを盛り上げる衣装・小道具・大道具について 劇あそび指導における保育者の関わり方(発達段階に応じた保育展開等)				
7・8	役決め・道具作り				
9・10	グループワーク				
11・12	グループワーク				
13・14	発表会				
15	振り返り				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS042		言語表現		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
森山 剛充		兼任		幼稚園教諭 教務主任, 認定こども園 主幹保育教諭の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
現代社会においては、情報の理解能力、人間の思考に関する省察力、コミュニケーションなどを子どもたちに育成することが求められている。言語はそれらに通底する基礎能力である。本講義では、幼児教育、言語教育、教育人間学などの諸領域を横断して、情報、思考、コミュニケーションに関する基礎知識を獲得すること、また、言語コミュニケーションについて、体験を踏まえた反省的な知識を得ることを目標とする。					
■ 成績評価基準					
授業態度及びレポート <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	オリエンテーション				
3・4	コミュニケーションを考える上での言語表現視点				
5・6	記号と意味(1) ～文脈と意味～				
7・8	記号と意味(2) ～人を動かすことば～				
9・10	情報処理とことば				
11・12	絵本モンタージュ論				
13・14	絵本モンタージュ論による絵本分析				
15	ブックトーク実践(劇化)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS043		幼児と人間関係		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 必修		1年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。子どものライフコースにおける人と関わる力の重要性を理解する。子どもが本来有している人と関わる能力について理解し、そうした能力を引き出すために必要な環境構成のあり方について検討することが求められる。また、子どもたちを取り巻く過程や地域などの現状を理解しながら、現在の社会背景による子どもたちへの影響等について考え、乳児保育の意義や役割を理解する。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度)10点、課題50点、レポート40点 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
塚本美知子		対話的、深い学びの保育内容 人間関係		萌文書林	
		幼稚園教育要領		文部科学省	
		幼保連携型認定こども園教育・保育要領		文部科学省、内閣府、厚生労働省	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	子どもを取り巻く社会の状況について知る				
3・4	保育の基本と領域「人間関係」について 領域「人間関係」のねらい及び内容の取扱い				
5・6	年齢別にみる人との関わりの発達と保育者の援助				
7・8	愛着形成の理論と実際 子どもを取り巻く人間関係について				
9・10	子どもの自立心について 子どもの自己主張と自己発揮について				
11・12	いざこざ・けんかなどのトラブル 共感・思いやり				
13・14	幼児期における道徳性・規範意識について				
15	コミュニケーション能力について				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS044		幼児と環境		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 必修		1年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
幼児期は興味や関心を持ったものに対して自分から関わろうとする能動性が心身の発達要因となる。この能動性を発揮させるには環境との関連が重要である。そのための人的環境、物的環境、自然環境、社会環境等について考えさせる。また、幼児は遊びをとおして心身が発達するものである。幼稚園教育要領「環境」のねらいに沿い (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。(2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。について具体的な指導法について保育者として自ら考えさせる。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度)10点、グループ活動20点、発表20点、課題20点、レポート点30点					
<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
駒井美智子・横山文樹(編)		事例と演習でよくわかる保育内容「環境」		中央法規	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園での「環境」の位置づけ				
3・4	ねらい及び内容による「環境」				
5・6	年齢別にみる発達と保育と環境について				
7・8	理想的な保育環境について考える(グループ活動)				
9・10	グループ発表				
11・12	指導計画と環境				
13・14	保育者の環境				
15	テスト・まとめ				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS045		音楽表現技術		講義・実技	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 必修		2年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 授業時数	
福元 清美		専任		15	
				■ 単位数	
				1	
■ 担当教員の主な職務経歴					
福元 清美		高等学校教諭(音楽)の業務に従事			
■ その他教員 住吉 智子					
■ 授業概要及び到達目標					
1年次で学んだ4つの調の3コード奏法をさらに確実なものにする。 連弾を通して、呼吸の合わせ方やアンサンブルの重要性を学ぶ。					
■ 成績評価基準					
実技試験(90%) 授業への参加態度(10%) 実技試験を担当講師全員で評価し、 合計を出し平均する。					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
平松 愛子		音楽 ピアノ教本		近畿大学九州短期大学	
久世 安敏		音楽 声楽教本		近畿大学九州短期大学	
鹿児島私立幼稚園協会 発行		うたとあそび		共同音楽出版社	
幼児表現教育研究会 編著		うたてつくてあそぼう		音楽之友社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回		授 業 内 容			
1・2		童謡曲を用い、音程・リズムを正確に捉えて歌う			
3・4					
5・6		ハ長調の楽譜をヘ長調・ト長調へ移調する それぞれの調のコードを確認する			
7・8					
9・10		ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調の曲を3コード(I IV V)使い演奏できるようにする			
11・12					
13・14		連弾の練習・発表			
15		試験			
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS046		幼児体育実技		講義・実技	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1・2年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
塗木 勇成		兼任		保育士等の業務に従事	
■ その他教員		小鷹 優太			
■ 授業概要及び到達目標					
保育者育成における「幼児ダンス」を知り、現場で活躍していく為の基礎力を身につける					
■ 成績評価基準					
実技試験 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	基本的なステップを知ろう		17・18	基本的なステップを覚えよう	
3・4			19・20		
5・6	保育園・幼稚園の遊戲、振り付けを知ろう		21・22	振り付けの作り方を知り、作ってみよう	
7・8			23・24		
9・10	踊りについて知ろう		25・26	踊りについて知ろう	
11・12			27・28		
13・14	踊りを知りつくってみよう		29・30	振り付けを発表しよう	
15・16					
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS047		保育実習Ⅱ		実習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 選択		2年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 授業時数	
早瀬 勇介		専任		90	
				■ 単位数	
				2	
■ 担当教員の主な職務経歴					
		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養う。 ・「保育実習事前事後指導Ⅰ」「保育実習(保育所)」, またその他の教科で学習した内容を基盤に、児童福祉施設における養護の理解、家族への支援など保育の実践力を養うことを目的とする。 ・指導計画の作成や記録などの保育の実践力を養う。 ・保育実習Ⅱ・Ⅲの事後指導として、自己評価を行い、保育士としての自己の課題を明確化する。					
■ 成績評価基準					
実習先における評価を点数化し、通常の授業態度を加味し、総合的に評価する。 平常点(授業態度・提出物(実習事後レポートを含む):概ね20点) 実習先評価(概ね80点)					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
石橋裕子 他		しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版		同文書院	
■ 特記事項					
保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1～90	保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り 子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う				
	その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する(声掛けの仕方)				
	その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する(手遊びなど子どもの興味を引く手立て)				
	問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する				
	延長保育や休日保育, 育児相談など子育て支援事業を理解する				
	保育の計画, 実践, 観察, 記録及び自己評価等の実践と理解				
	保育の計画, 実践, 観察, 記録及び自己評価等の実践と理解(部分実習・全日実習・評価保育)				
	保育士としての自己の課題を明確にする				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS048		保育実習Ⅲ		実習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	選択	2年	通年	90分	
				90	2
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・既習の教科や「保育実習Ⅰ」での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目標とする。 ・児童家庭福祉(保育所以外)、その他の社会福祉施設で養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭及び社会的養護、障害者福祉に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援、障害児支援のための知識、技術、判断力を養う。					
■ 成績評価基準					
実習先における評価を点数化し、通常の授業態度を加味し、総合的に評価する。 平常点(授業態度・提出物(実習事後レポートを含む):概ね20点) 実習先評価(概ね80点) ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
石橋裕子 他		しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版		同文書院	
■ 特記事項					
保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1～45	保育実習Ⅰ(施設)の振り返り		46～90	保護者・家庭への支援と地域社会への連携について	
	保育実習Ⅰ(施設)の振り返りで自己課題を明確にしておく。			教材研究・指導計画・自立支援計画の作成	
	保育実習Ⅲの目的・意義について			子どもの最善の利益と養護の内容、方法理解	
	児童福祉施設等の社会的役割、機能			多様な専門職とその連携を学ぶ	
	児童福祉施設等の施設保育士の役割			保育実習Ⅲに対する総理解・自己課題の明確化	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS049		保育実習事前事後指導Ⅱ		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	選択	2年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・「保育実習Ⅰ（保育所）」他、これまでに学習した内容を基盤に保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術など実践力を養う。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ・子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また、家庭支援など保育の実践力を養う。					
■ 成績評価基準					
平常点〈出席・授業態度・提出物等・概ね10点〉 授業理解ワークシート〈提出期限・内容・丁寧さ等40点〉 振り返りテスト(50点) ※欠席した場合単位は認めず、実習には参加できない。 ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
保育実習事前事後指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りを行う				
3・4	保育実習Ⅱの目的・意義について				
5・6	保護者・家庭への支援と地域社会への連携				
7・8	子どもの最善の利益と養護の理解について				
9・10	再確認した事項に基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。				
11・12	教材研究・指導計画・自立支援計画の作成の作成				
13・14	保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、課題、学習計画の作成				
15	保育実習Ⅱに向けた総合理解・自己課題の明確化・確認試験				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS050		保育実習事前事後指導Ⅲ		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	選択	2年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任、保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
・「保育実習Ⅰ（保育所）」他、これまでに学習した内容を基盤に保育所・施設の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術など実践力を養う。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 ・子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また、家庭支援など保育の実践力を養う。					
■ 成績評価基準					
平常点〈出席・授業態度・提出物等・概ね10点〉 授業理解ワークシート〈提出期限・内容・丁寧さ等40点〉 振り返りテスト(50点) ※欠席した場合単位は認めず、実習には参加できない。					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
保育実習事前事後指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	保育実習Ⅰ（施設）の振り返りを行う				
3・4	保育実習Ⅲの目的・意義について				
5・6	保護者・家庭への支援と地域社会への連携				
7・8	子どもの最善の利益と養護の理解について				
9・10	教材研究・指導計画・自立支援計画の作成の作成				
11・12	再確認した事項に基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。				
13・14	教材研究などの実践と資料等を用いて、児童福祉施設の理解を深める。				
15	保育実習Ⅲに向けた総理解・自己課題の明確化・確認試験				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS051		教育実習			実習
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期	■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数	■ 単位数
専門	必修	2年	通年	90分	120
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的に、また総合的に高めていくことを目標とする。 この目標を達成するために、第1回(2週間)の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回(2週間)の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができることを目標とする。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度)10点、教育実習成績90点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
		実習日誌			近畿大学九州短期大学発行
		幼稚園教育要領			文部科学省
		幼保連携型認定こども園教育・保育要領			文部科学省、内閣府、厚生労働省
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1～120	幼児観察 園の一日の流れ把握 担任補助 指遊び・絵本の読み聞かせ 部分実習 評価保育 実習反省				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS052		教育実習事前事後指導		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門 必修		2年 通年		90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識を理解する。観察記録の作成、指導計画の立案の方法、まとめに関わる考察の視点を理解する。 1 教育実習に向けた「事前」の心構えや、準備に関する基礎知識を理解する。 2 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。 3 「事後」のまとめに関わる考察の視点を理解する。					
■ 成績評価基準					
平常点(出欠、授業態度)10点、グループ活動30点、課題30点、まとめテスト30点					
＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
		幼稚園教育要領		文部科学省	
		幼保連携型認定こども園教育・保育要領		文部科学省、内閣府、厚生労働省	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	教員養成の目標と教育課程、教育実習の意義				
3・4	幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教育を取り巻く状況、幼稚園教員の職務と役割				
5・6	幼児期の発達課題と生活課題、家庭との連携				
7・8	実習園選定に向けた情報収集の方法				
9・10	観察、参加実習における記録作成の意義と方法				
11・12	指導計画の作成の方法①(「朝の会」「給食指導」「降園」の指導計画)				
13・14	指導計画の作成の方法②(「中心となる活動」の指導計画)				
15	教育実習に向けた準備 ・まとめテスト				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS053		幼児教育実践(保育技術)		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	1・2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
保育者に必要な技術を学び, 保育現場で生かせるようにする。 ・保育者が子どもに対して行う保育実技を扱うことで自分自身の技術として身に付けていく。 ・乳幼児の心理・発達段階・幼児のその時の精神状態や集団での様子の把握の仕方, 対処法などを学んで, 即実践できる質の高い保育者を目指す。 ・望ましい幼児教育の実践者を目指し, 保育内容全般にわたる演習を行い, 幼児教育者としての技術向上を図る。					
■ 成績評価基準					
平常点(出席・授業態度等:概ね20点) 製作物提出(内容・提出期限等:概ね10点) 学期末テスト※製作実技(概ね70点)				<基準> 100～90点: 秀 89～80点: 優 79～70点: 良 69～60点: 可 59点以下: 不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(1年次)		回	授 業 内 容(2年次)	
1・2	幼稚園・保育所・認定こども園での乳幼児の姿や保育者の仕事について知る		1・2	・保育に役立つ資料集を作成し, それぞれの事例や対応等を確認する ・くるくる絵本作成	
3・4	・幼稚園・保育所・認定こども園の一日(子・保育者) ・実習で出会う子どもたちの発達の姿		3・4		
5・6	保育技術とは何か, またその必要性について ・手遊び, わらべうたあそび, 身近な素材を使つての製作遊びを通して保育への活かし方を学ぶ		5・6		
7・8	子どもに適した児童文化財を学び, 絵本・紙芝居の演習を行う事で技術を学ぶ		7・8	集団遊び・わらべうた遊び・ゲーム遊びについて学び, 実践を通して保育現場での遊びのレパートリーを増やす(子どもの遊びの理解を深める)	
9・10	教材作り(オリジナル絵本)と発表		9・10		
11・12	知っておきたい造形の素材と用具について学ぶ ・作品, 教材作り ・クレパス, クレヨン, 絵の具を使つての演習		11・12	望ましい生活習慣の習得の指導や保護者との対応・連携の仕方を学ぶ	
13～15	子どもとの関わりについて学ぶ ・コミュニケーションをとる方法, 子どもを惹きつける3つのテクニック, 喧嘩(トラブル)の対応 ・教材研究について(保育における教材の特質, 教材の種類, 手作り教材について) ・総合テスト		13～15	製作活動(保育現場で役立つ身近な材料から) ・保育者としてのマナー・職場でのコミュニケーションのとりかた(グループ活動を含む) ・まとめ及びテスト	
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS054		幼児教育実践(保育実技)		演習・講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 授業時数	
専門	必修	1・2年	通年	90分	30
				2	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
早瀬 勇介		専任		幼稚園教諭及び主任, 保育士等の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
乳幼児の心理・発達段階・幼児のその時の精神状態や集団での様子の把握の仕方や対処方法などを学んで、即実践できるようにするための技術を身に付けていく。 ・幼児の発達に応じた保育内容や環境構成のあり方などを知る。 ・季節に応じた保育内容, 題材について学ぶ。 ・年齢に応じた教材作りを学ぶ。 ・製作, 絵画, 幼児体操, バルーンなど様々な保育内容の実践を学ぶ。 ・指あそび, わらべ歌, 絵本, 紙芝居など, 実習で実践できるようになる。					
■ 成績評価基準					
期末試験100点				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可	
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
志村 聡子 他		はじめて学ぶ乳児保育		同文書院	
久富 陽子 他		保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開		萌文書林	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容		回	授 業 内 容	
1・2	壁面製作(行事表・誕生表), 指あそび		17・18	実技活動と指導案の関連づけ, 手遊び等実技	
3・4	折り紙製作(月ごとの内容, 展開を示す)		19・20	教材作り(手袋人形)	
5・6	教材作り(六角返し・ペンダントシアター)		21・22	実技活動と指導案の関連づけ, 手遊び等実技	
7・8	幼児体操 (表現活動), わらべうた		23・24	教材製作(エブロンシアター)	
9・10	教材作り(紙芝居)		25・26	実技活動と指導案の関連づけ	
11・12	幼児体操 (バルーン体操)		27・28	実習時期の保育内容, 指導案立案	
13・14	教材作り(廃材で作ろう)		29・30	実習時期の保育内容, 指導案立案, 手遊び等実技	
15・16	製作活動(壁面, 行事関係, プレゼントなど)				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名			
2025年度		こども学科					
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態			
C25MS055		実習指導(幼・保)		講義・演習・実技			
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数		■ 単位数
専門	必修	1・2年	通年	90分	90	6	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴			
濱田 恵利子		専任		幼稚園教諭及び主任の業務に従事			
■ その他教員		早瀬 勇介					
■ 授業概要及び到達目標							
・幼稚園の教育実習は「幼稚園教諭二種免許状」を取得するための必須の単位であることをしっかりと認識し、実習を開始するにあたって、「幼児期の生活と発達の特性」「幼稚園教育の基本と目標」を確認することを目標とする。 ・保育実習の意義、目的をしっかりと理解し、「保育所保育指針」の発達区分に沿って、子どもの発達と保育の目安を確認する。 ・幼稚園と保育園、認定こども園を比較しながら違いを学び、保育園の流れや概要を知る。							
■ 成績評価基準							
期末試験100点				<基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可			
■ テキスト・参考書							
著者名		書籍名			出版社		
石橋裕子, 林幸範		実習ガイド			同文書院		
		幼稚園教育要領			文部科学省		
		幼保連携型認定こども園教育・保育要領			内閣府・文部科学省・厚生労働省		
		幼稚園事前実習指導			近畿大学九州短期大学発行		
■ 特記事項							
■ 授業計画							
回	授 業 内 容			回	授 業 内 容		
1～4	乳児, 幼児の生活の1日, 教師の1日(タイムスケジュール), 幼稚園と保育園との違いを知る(DVD)			33～36	実習日誌の記録の仕方(演習), 指導案立案について		
5～8	実習の形態, 方法について知る。 2年次の教育実習計画について学ぶ。			37～40	指導案, 教材研究など(グループワーク)		
9～12	基本実習に対する心構え, 実習の具体的な活動, 絵本・ペープサート・紙芝居の演習をする。 (グループワーク)			41～44	指導案, 教材研究など(グループワーク)		
13～16	幼稚園教育要領, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 「3つの学び」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について			45～48	指導案, 教材研究など(グループワーク)		
17～20	乳幼児の遊びや年齢の発達段階について (アクティブラーニング)			49～52	指導案, 教材研究など(グループワーク)		
21～24	実習園へのオリエンテーションについて ①電話のかけ方(演習) ②事前の準備について			53～56	指導案, 教材研究など(グループワーク)		
25～28	個人調書・出席簿・評価表, 実習の抱負と課題について			57～60	まとめおよびテスト		
29～32	実習日誌の記録の仕方(演習), 指導案立案について						
備考							

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS056		小児リハビリテーション論		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
船迫 慎司		兼任		病院勤務 作業療法士の業務に従事	
■ その他教員		山下 喬之 福元 恵美			
■ 授業概要及び到達目標					
小児分野のリハビリテーションについて理解する。 理学療法、作業療法、言語療法を知り、それぞれの分野ごとのかかわりや支援の仕方などを理解する。					
■ 成績評価基準					
筆記試験により評価する ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	リハビリテーションの概要				
3・4	子どもに関連する理学療法の概要				
5・6	感覚統合について				
7・8	ADL等の支援について				
9・10	言語発達について				
11・12	摂食嚥下障害について				
13・14	視覚聴覚二重障害について				
15	試験・解説				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC006		国語表現		講義	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
一般	必修	1年	通年	90分	
				15	1
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
福元 清美		専任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
将来保育現場に立ち、子どもたちの先生になることを目指す者は、すべてにおいて子どもたちのお手本になることを意識する必要がある。それには日常、何気なく使っている国語(日本語)の表現も含まれる。話し方や書き方など、会話や文章にあらわれる教養を高めることを目的とする。					
筆記試験(90%) 授業への参加態度(10%) <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
田上 貞一郎		保育者になるための国語表現		萌文書林	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	敬語の使い方				
3・4	文字を正しく書こう				
5・6	文字を正しく書こう				
7・8	正しい表記で書こう				
9・10	文章作成上の留意点				
11・12	実習礼状など手紙・ハガキの描き方				
13・14	履歴書の書き方				
15	確認テスト				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名			
2025年度		こども学科					
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態			
C25MS057		レッスン(ピアノ)		演習			
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数		■ 単位数
専門	必修	1・2年	通年	90分	60	4	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴			
福元 清美		専任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事			
■ その他教員		引地 えり子, 住吉 智子, 大久保 さやか					
■ 授業概要及び到達目標							
幼稚園や保育所での子どもたちの生活には、音楽活動が欠かせない。そのような現場で幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指し学習する。 必要最低限の楽譜を読む力、ピアノを弾きこなす力、さらに曲の表現まで踏み込めるようコード奏法も含め、現代社会の幼児教育に沿った、新しいピアノ実技の在り方を追求しつつ指導を行う。 音楽全般について基礎を学び、現場で子どもたちと共に音楽の喜びを共有し合える保育者を養成する。 音楽を表現する力を習得することを目標とする。 実習に向けて必要な、生活曲・季節曲・童謡・アニメ等を演奏するために必要なコード奏法を理解する。 曲の流れを止めることなく表情豊かに弾き歌いができるように指導する。							
■ 成績評価基準							
実技試験(90%) 授業への参加態度(10%) 実技試験を担当講師全員で評価し、合計を出し平均する。 ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可							
■ テキスト・参考書							
著者名		書籍名			出版社		
平松 愛子		音楽 ピアノ教本			近畿大学九州短期大学		
久世 安敏		音楽 声楽教本			近畿大学九州短期大学		
鹿児島県私立幼稚園協会 発行		うたとあそび			共同音楽出版社		
幼児表現教育研究会 編著		うたってつくってあそぼう			音楽之友社		
■ 特記事項							
■ 授業計画							
回	授 業 内 容(1年次)			回	授 業 内 容(2年次)		
1・2	教本を用いて、指の運びや指使いのこと、読譜力などを高める。 簡単な童謡曲を使って、まずは右手でメロディーが弾けるように、さらに左手でコードを用いて簡単な伴奏を付けて弾けるようにする。 少しずつコードネームも理解する。			1・2	教本のバイエル曲の練習と並行しながら、教育実習に向けた生活曲や季節曲の習得を目指す。		
3・4				3・4			
5・6				5・6			
7・8				7・8			
9・10				9・10			
11・12				11・12			
13・14				13・14			
15・16	前期試験			15・16	前期試験		
17・18	保育実習・スクーリングに向け、ハ長調・ニ長調・ヘ長調・ト長調の主要三和音を理解し、伴奏を付けて弾き歌いができるようにする。 教本・季節曲を進める。			17・18	スクーリングに向けて主要な長調の主要三和音の奏法を確実なものとし、季節曲のレパートリーを増やす。 スクーリングで得た技術を他の曲にも応用できるようにする。		
19・20				19・20			
21・22				21・22			
23・24				23・24			
25・26				25・26			
27・28				27・28			
29・30	後期試験			29・30	後期試験		
備考							

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MS058		レッスン(ギター)		演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
専門	必修	2年	通年	90分	
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
原田 幸典		兼任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
ギターの特性を知り就職後、実務で役に立つようコードを学ぶ					
■ 成績評価基準					
実技試験(90%) 授業への参加態度(10%) <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容				
1・2	ギターの特性を知る チューニングの仕方				
3～6	きらきら星を題材にコードを学ぶ				
7～14	きらきら星の練習				
15	発表				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MS059		音楽リズム			講義・演習
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
専門	必修	1・2年	通年	90分	60
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
福元 清美		専任		高等学校教諭(音楽)の業務に従事	
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
テキストを使用し、幼児教育で必須であるピアノに関連するソルフェージュの力や、音楽学習の基礎的な知識と応用力を養う。ピアノ実技で使用する教則本の進捗と平行した内容で、歌唱、聴音、リズム打ちなどを通して、音楽を理論と実技の両方から身につけていく。随時声楽の時間も設け、テキストを使用しながら音程・リズムの理解と習得に努める。					
■ 成績評価基準					
筆記試験(90%) 授業への参加態度(10%) <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
板東 貴余子 他		週に一度の音楽ワーク(上・下巻)			ドレミ楽譜出版社
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(1年次)			回	授 業 内 容(2年次)
1～4	五線、ト音記号、全音符・4分音符・2分音符			31～34	短音階(3種類)、イ短調
5・6	休符、拍子			35～38	へ長調・変ロ長調
7・8	タイ、加線			39～42	変ホ長調・変イ長調
9・10	8分音符・8分休符			43～45	複付点音符、半音階
11・12	付点4分音符、主要三和音(ⅠⅣⅤ)			46～48	下属音・属音・導音
13・14	音の強弱、拍子記号			49～52	五度圏
15・16	リピート記号、オクターブ			53～56	平行調・同主調 下巻のまとめ
17・18	へ音記号 上巻のまとめ			57～60	総合問題
19・20	全音・半音、長音階				
21～23	ハ長調、ト長調				
24・25	三連符、二長調				
26～28	イ長調、ホ長調				
29・30	16分音符・16分休符・付点8分音符				
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名			■ 授業形態
C25MC07		一般教養			講義
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	■ 授業時数
一般	必修	1・2年	通年	90分	30
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
福元 清美		専任			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
職業人として必要最低限の一般常識を身に付ける。 適性検査で出題される内容を把握し、分類・照合・置換などの問題を繰り返し行い、傾向を知る。 1. 一般教養を習得する 2. 基本的な計算問題を解ける力を習得する 3. 基本的な漢字の読み書き能力を習得する					
■ 成績評価基準					
筆記試験(90%) 授業への参加態度(10%) ＜基準＞ 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名			出版社
就職試験研究グループ		筆記試験対策ベーシックドリル 一般常識＆SPI			実教出版
■ 特記事項					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(1年次)			回	授 業 内 容(2年次)
1・2	【国語】漢字の読み書き 同音異義語 同義語 対義語			17・18	【国語】ことわざ 故事成語 四字熟語 慣用表現
3・4				19・20	
5・6	【社会】日本地理 世界地理 日本史 政治			21・22	【社会】環境 福祉 日本の地形 県庁所在地
7・8				23・24	
9・10	【英語】単語 熟語 【数学】整数の計算 分数と小数の計算			25・26	【英語】英会話表現 【数学】和と式 方程式 図形
11・12				27・28	
13・14	SPI 分類 概算 文章照合 基礎能力			29・30	SPI 正誤の照合 表の読み取り 置換 計算
15・16	確認テスト			31・32	確認テスト
備考					

■ 対象入学年度		■ 学科名		■ コース名	
2025年度		こども学科			
■ 科目コード		■ 科目名		■ 授業形態	
C25MC08		キャリア教育		講義・演習	
■ 科目区分 必修／選択		■ 配当年次・学期		■ 1コマあたりの時間	
一般	必修	1・2年	通年	90分	
				60	4
■ 代表教員名		■ 教員区分		■ 担当教員の主な職務経歴	
各学年クラス担任		専任			
■ その他教員					
■ 授業概要及び到達目標					
<クラス運営> 1. 学校生活上必要な書類作成やクラス運営上の取り決めを行なう 2. 学園祭のクラス出店に関する企画・運営 3. その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い 4. 卒業発表会の内容検討・準備 <就職活動> 1. 自己分析し、就職に対する目標を定める 2. 就職活動の流れを確認する 3. 企業研究に必要な環境を整備する 4. 履歴書の書き方を修得する					
■ 成績評価基準					
科目の特性上、成績評価は実施せず、全授業時間数の3分の2以上の出席をもって単位認定を行う。 <基準> 100～90点：秀 89～80点：優 79～70点：良 69～60点：可 59点以下：不可					
■ テキスト・参考書					
著者名		書籍名		出版社	
■ 特記事項					
GPA算出除外科目					
■ 授業計画					
回	授 業 内 容(1年次)		回	授 業 内 容(2年次)	
1・2	学校生活およびクラス運営上の取り決め		1・2	エントリーシートの書き方	
3・4	棚と座席の決定		3・4	企業ガイダンスに向けて	
5・6	各種当番の決定		5・6	身だしなみ	
7・8	各種必要書類の作成		7・8	面接指導	
9・10	学園祭の企画・運営		9・10	お礼状の書き方	
11・12	クラス内実行委員の決定		11・12	その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い	
13・14	クラス出展内容の決定		13・14	卒業発表会の内容検討・準備	
15・16	クラス内の各役割分担の決定		15・16	その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い	
17・18	事前準備		17・18	卒業発表会の内容検討・準備	
19・20	就職の目的		19・20	その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い	
21・22	就職活動スケジュール		21・22	卒業発表会の内容検討・準備	
23・24	自己分析		23・24	その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い	
25・26	業種・職種研究		25・26	卒業発表会の内容検討・準備	
27・28	企業研究		27・28	その他、イベント大会等必要が生じた際の話合い	
29・30	履歴書の書き方		29・30	卒業発表会の内容検討・準備	
備考					